



## 暑い、寒いなどは、どこで、どうして感じるの

### 暑さや寒さを感じるところが、皮ふにある

わたしたちが、暑いとか、寒いとか感じるのは、皮ふに、それを感じるもの（感覚器）があるからです。

熱いものや冷たいものが体にふれると、「熱い」「冷たい」などと、わたしたちはすぐに反応してしまいます。これは、皮ふに、この熱さ（温覚）や冷たさ（冷覚）を感じるものがあるからです。熱さを感じるものに、温度の高いものがふれると、「熱い」と感じ、冷たさを感じるものに、温度の低いものがふれると、「冷たい」と感じるのです。

暑さや寒さを感じるというのは、空気の温度（気温）の熱さや冷たさを、感じるということです。暑さや寒さというのは、やはり、皮ふにあるこの二つのもの（感覚器）で感じとっているということになります。そして、この二つのもの（感覚器）は、体の表面に、たくさんちらばっているのです。

### 皮ふにはいろいろなものを感じるしくみがある

皮ふが感じとるものには、痛覚（痛さ）・触覚（さわる）・温覚（温かさ）・冷覚（冷たさ）・圧覚（おす）などがあり、それぞれを感じるところ（点）は別々です。そして、これらの点は、数の多少はありますが、混じり合って、全身の皮ふにちらばっているのです。

（監修・保志 宏）

自由神経終末（痛い）    マイスナー小体（触覚）    ルフィニ小体（温かい）  
 クラウゼ小体（冷たい）    パチニ小体（おしている）

